



町内の温泉や特産品をイメージした手ぬぐいを作った板垣さん(前列中央)と浜坂高の美術部員＝17日、新温泉町芦屋の浜坂高

浜坂高生と地域おこし協力隊製作

# 町特産を手ぬぐいに

## 但馬牛やカニ 仲良く温泉

新温泉町地域おこし協力隊の板垣飛鳥さん(33)と浜坂高生5人が温泉振興の一環で、同町の特産品をイメージした手ぬぐいを製作した。17日に同町芦屋の同校でお披露目会が開かれ、高校生は「老若男女に使ってもらい、ほっこりとした気

持ちになってほしい」と呼び掛けた。板垣さんは昨年、同校の生徒と入浴剤を共同製作。手ぬぐいは同校の美術部員とともに昨年12月からデザインなどの構想を練った。業者者に依頼し、今月中旬に500枚が完成した。

手ぬぐいのサイズは縦85センチ、横34センチ。温泉卵や但馬牛、カニ、ハマダイコン、ちくわなど同町の特産品を擬人化し、湯に仲良く漬かる様子をかわいらしく描いた。温泉になじむようにと、えんじと白の落ち着いた配色にした。

お披露目会で初めて完成品を見た同校美術部の稲垣沙耶香部長(17)は「イラストがきれいにプリントされるか心配だったが、想像以上の出来栄でうれしい。手ぬぐいを干す時にもイラストが見えるよう配置にもこだわった」と話した。

手ぬぐいは、町内での配布を検討しており、時期や場所は未定。板垣さんは「浜坂高生とまた交流できたことがうれしい。生徒の若い感性が光り、新温泉らしい存在感を存分に盛り込んだ手ぬぐいに仕上がった」と笑顔だった。(竹内涼子)